



## 学校ぐるみの学力向上取組例

子どもたちに確かな学力をつけるために、そして子どもたちが持っている力をもっと高めるために、わたしたちは日々授業改善に努め、また授業以外にも様々な取組の工夫を重ねています。今回は、そのような取組の中から、参考となる実践例を2例紹介します。

### 川北町立川北小学校

### 繰り返すことで、 子どもたちに着実な力を！

#### ① 学力向上取組特別プラン（2月～4月）

◇組織的体制を生かした短期タイムスケジュールを作成〔教務主任〕

学力向上に向けた短期タイムスケジュール（2～4月）

川北小 学校

管理職	教務主任	研究主任	担任・教科担当	市町教委
・短期タイムテーブル作成 ・取り組みの目的、時期、役割等について指示 2月	・補充学習計画案作成 ・4月中旬までの短期取り組み計画作成、町教委提出 ・取り組みの状況把握、問題点の洗い出し ・評価問題の再テスト作成 ・学年末校内漢字・計算テストの提案 ・CRテストの提案	・春休みに取り組む内容の計画の立案	・評価問題解説 ・学年末校内漢字・計算テスト、CRテストに向けた取組 ・再テスト実施 <b>21日まで</b> ・パワーアップタイム等で、弱点克服の取り組み ・学年末校内漢字・計算テストの実施 ・CRテストの実施 ・学期末テストに向けた取り組み ・管内パワーアッププリント実施（小3、小5）	・短期タイムテーブル作成 誰が ・進捗状況確認 ・管内パワーアッププリント（小3、小5）配付
・校内学力調査の結果の確認と取り組みの指示 ・再テストの状況等、取組について町教委へ報告（26日） 学力担当者会 ・自校の取組状況の確認と具体策の提示 ・今後に向けて	・校内学力調査の集約と対応策の作成 ・配布された管内パワーアッププリントの活用計画立案			

#### ② 現状と課題や方向性の共有を組織的な取組に

- ◇12月評価問題の結果を受けての校内研修会を実施（1月）
- ◇評価問題の細かな結果分析の実施（問ごと、AB問題別）
- ◇学力定着の不十分な学習内容を全教職員で共有し、  
目標の設定や具体的対応を確認

例：5年生の算数科に関連する取組を強化

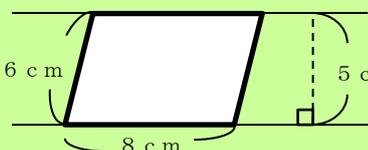
- ① 月、木曜日の朝自習にパワーアッププリント、補充プリントを実施〔担任が解説点検〕
- ② 同日昼に学習タイムを設定し再確認プリント（数値変更版）〔級外が実施採点指導〕
- ③ 同日放課後に補充対象者を残して指導（数値再変更版プリント）〔級外+担任が指導〕

他にも・・・

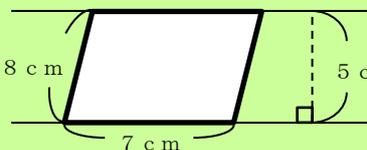
- ・家庭学習の強化
- ・新聞を活用した指導
- ・読書指導 等

#### ●数値変更版・再変更版プリントの例

①朝自習

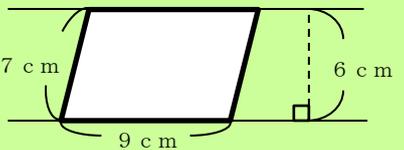


②昼の学習タイム



※全員が理解習熟できるまで

③放課後



4月の全国学力・学習状況調査、基礎学力調査、12月の評価問題の結果を分析し、各学年の課題を洗い出し、授業改善に生かしていくという取組も、研究主任が中心となり学校全体で進めています。

### ① 学校全体で取り組む「全校一斉放課後学習」

本校では、放課後学習を全学年で行っています。終礼を含めて30分間の実施です。教科担当者は、担当学年を越えて指導したり、自分の担当以外の教科も支援に入ったりしています。生徒が気軽に質問でき、個に応じた学習が展開されています。また、学校全体で全教職員が協力して取り組むことにより、部活動の開始時刻もそろいます。「学校全体で取り組む」メリットを生かし、一体感のある取組が実践されています。

### ② 視覚化された「短期タイムスケジュール」

学力向上に向けた「短期タイムスケジュール」

2014.2. 片山津中学校

年間	内容	担当
年間	表現力・活用力 授業において表現力や活用力をつける工夫	各教科
年間	新聞記事 金曜の朝読書の時間に新聞記事を読ませ要点や感想を書かせる	1,2年
11月～3月	放課後学習 放課後毎日20分間(終礼込み30分間) 5教科のプリント(文章読解、計算など)	各教科および担任
1月	評価問題の復習 業で評価問題の解説 評価問題再テストの作成 授業で解答率の低い問題の再テストプリント 整研シートによる1,2年内容の要約	国語・数学科 教務(印刷) 国語・数学科 2年

Let's try 英語検定！  
実物掲示で関心UP！



実物掲示で、興味・関心・意欲を高める！そんな仕掛けが片山津中学校にあります。

片山津中学校では、「いつ、誰が、何を」を一覧にし、確実な実施へとつなげるよう、全教職員で共有しています。評価問題の結果を分析し、正答率の低かった問題について再テストを行い、過去問題やパワーアッププリント等も有効活用し、解説を充実させて生徒の理解と定着を図ろうとしています。定期テストや新聞記事の活用など、これまでの取組とのバランスも考慮されています。

評価問題の活用

誰が

いつ

定期テストの活用

春休みの課題の工夫

何を

過去問題の実施・解説

2月	管理職	教務主任	研究主任	担任・教科担当	市・管内の取組
<input type="checkbox"/> 学習状況把握、問題点の洗い出し <input type="checkbox"/> 短期タイムスケジュール作成 <input type="checkbox"/> 役割・取組内容を明確にし、指示徹底	<input type="checkbox"/> 過去問題の印刷 <input type="checkbox"/> 県基礎学力調査問題(性・英) <input type="checkbox"/> 県基礎学力調査問題(理)	<input type="checkbox"/> 今年度の学校研究の検証 <input type="checkbox"/> 授業改善を柱とした来年度の学校研究の方向性を提案	<input type="checkbox"/> 過去問題 授業において実施・解説(社基理) <input type="checkbox"/> 期末試験対策 放課後のプリント学習(2/17～21) <input type="checkbox"/> 学力強化週間 パワーアップ問題・パワーアップまとめシートの実施(2/26～3/14)	<input checked="" type="checkbox"/> 「評価問題」確認期間～2/21 <input checked="" type="checkbox"/> 各校の短期タイムスケジュール把握(≒切2/14) <input checked="" type="checkbox"/> 評価問題確認票の把握(≒切2/21) <input checked="" type="checkbox"/> パワーアップ問題の配布 2/10～ <input checked="" type="checkbox"/> パワーアップまとめシートの配布 2/20	
企画委員会 ・タイムスケジュール・役割分担の確認 ・3月にむけての方策検討					
3月	<input type="checkbox"/> 取組内容の検証・修正	<input type="checkbox"/> 学力検証ウィークの取組検証・改善策立案(報告≒切3/14) <input type="checkbox"/> 進級テストの準備	<input type="checkbox"/> 学力検証ウィーク 3/3(2～4限)H25県基礎学力調査問題の実施(社・理・英)→採点→分析 <input type="checkbox"/> 春休みの宿題 学力定着ワーク実施 直前確認プリントの宿題 H24実施問題(5教科の問題)の宿題	<input type="checkbox"/> 学力検証ウィーク 3/3～7(報告≒切3/14) <input checked="" type="checkbox"/> 直前確認プリントの配布 3/1	
企画委員会 ・学力検証ウィークの分析→取組内容の検証・修正→共通理解 ・4月にむけての方策検討 ・来年度への引き継ぎ事項の確認					
4月	<input type="checkbox"/> 新年度メンバーで取組の確認 <input type="checkbox"/> 取組の周知・徹底	<input type="checkbox"/> 新年度の学習タイムの取組推進 <input type="checkbox"/> 過去問題の印刷 H25実施問題(5教科の問題)	<input type="checkbox"/> 表現力の育成につながる取組について共通理解 <input type="checkbox"/> 春休み宿題の点検 <input type="checkbox"/> 進級テストの実施 <input checked="" type="checkbox"/> 過去問題 採点→実施(≒切4/18) H25県基礎学力調査問題(社理英) H25全国学力調査問題(国A・数A) →採点→担任が返却(4/18) 宿題(4/16)H25全国問題(国B・数B)	<input checked="" type="checkbox"/> 「県基礎学力調査」の実施 4/21 <input checked="" type="checkbox"/> 「全国学力・学習状況調査」の実施 4/22	
学力調査実施 県：4月21日 国：4月22日					
企画委員会 ・取組計画・役割分担の確認					

今回紹介した2校の実践例では、「共有」や「全校体制」など「組織的な取組」が強く意識されています。「いつ、誰が、何を」するのかを明確にしたプランやスケジュールの作成も、その手立ての一つです。

管内では、学級・学年・教科任せでそれぞれに行っている学校よりも、「組織」として取り組んでいる学校に活力を感じます。今一度「組織的な取組」となっているか確認し、児童生徒の実態に合わせて成果につながる工夫をお願いします。